

東日本大震災以降、

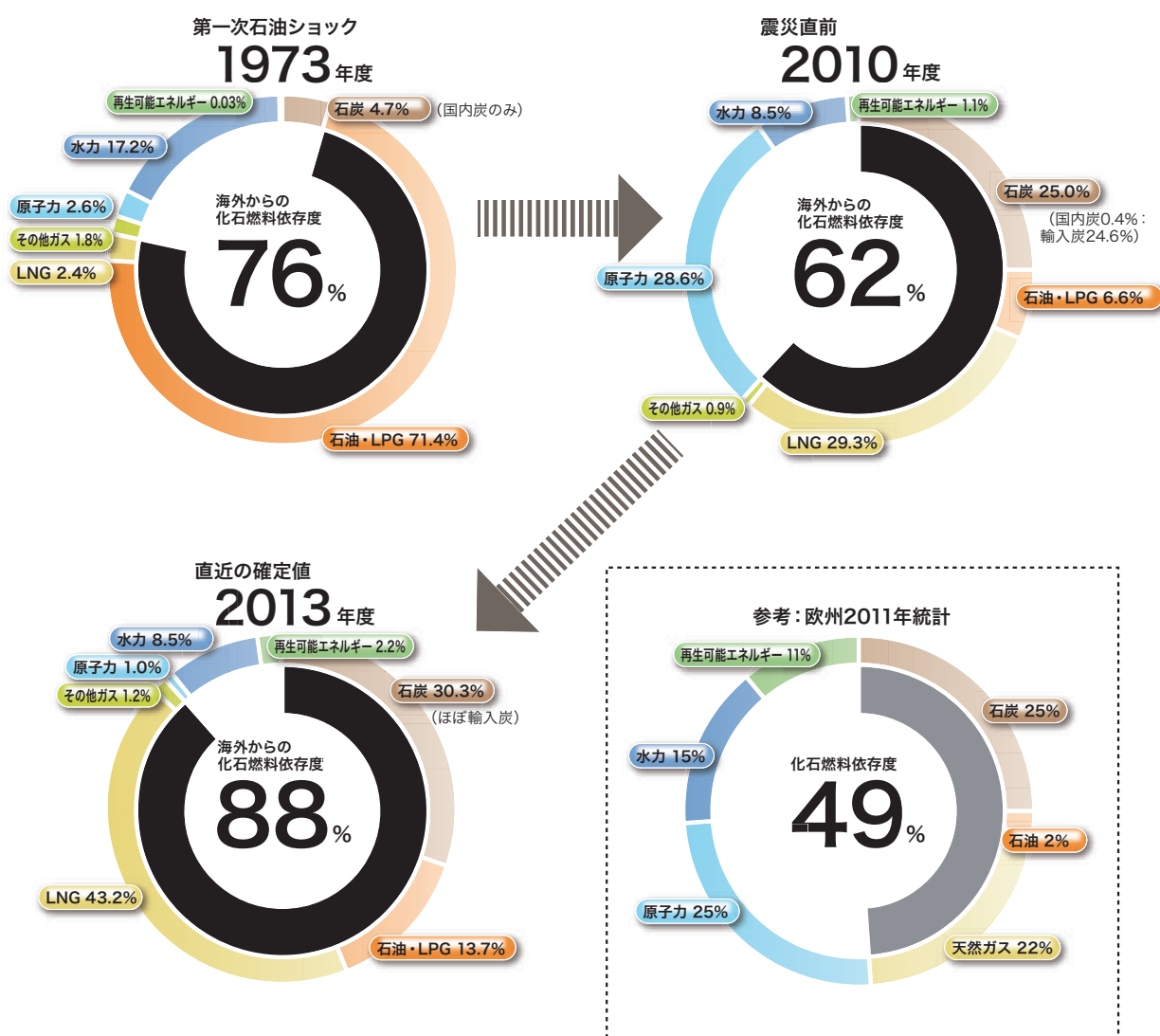
日本のエネルギー事情はどう変化したのでしょうか。

発電の化石燃料への依存が高まった結果、燃料コストの上昇、電気代の値上がり、二酸化炭素排出量増加などの影響が出てきています！

2014年10月末現在、原子力発電所は停止しています。電力の供給を、海外からの化石燃料に頼っており、その依存度は過去最高の水準にあります。

日本の電源構成の推移

出典：「電源開発の概要」等を基に作成。発電電力量を用いて%を算出。



LPG (Liquefied Petroleum Gas): 液化石油ガスの略称です。

LNG (Liquefied Natural Gas): 液化天然ガスの略称です。メタンを主成分とした天然ガスを冷却し液化した無色透明の液体で、発電用燃料としても大きな役割を果たしています。

その他ガス: 「その他ガス」とは、一般電気事業者において、都市ガス、天然ガス、コークス炉ガスが混焼用として使用されているものが中心です。

なお「その他ガス」は、文中の「海外からの化石燃料依存度」の中に含めています。

軽井沢環境ネットワーク
KARUIZAWA ECO Network
Stop Environmental destruction

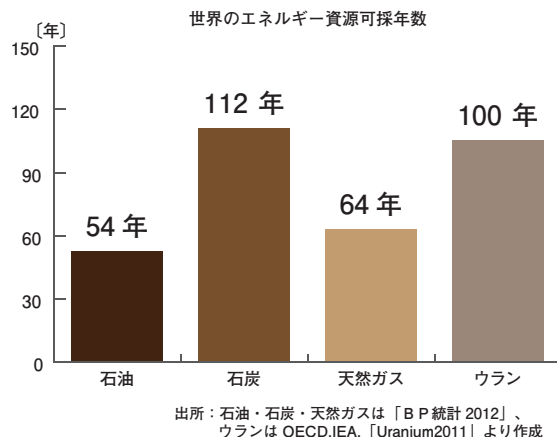
省エネとは、「省エネルギー」の略です。

- 石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うことをいいます。

エネルギーの安定供給確保

世界規模でのエネルギー需要が急増しています。これは、アジアを中心とした世界経済の発展が原因とされ、今後の20年ほどで世界のエネルギー需要は1.3倍に増加すると見通されています。

一方、供給面については、世界のエネルギー供給可能量(可採年数)は現在の消費ペースを前提とすると石油は約50年、天然ガスは60年で底をつくとされています。新たな油田や鉱山の発見により可採年数が延びる可能性もありますが、いずれにしても限りがあることには変わりありません。



《我が国のエネルギー事情を知り、 一人ひとり省エネを心掛けましょう！》

地球温暖化にストップをかけるためには、一人ひとりが問題意識を持ち、省エネを実行することが大切です。一人では効果が少ないように思えますが、全世帯で省エネすれば、大きな成果が得られます。できる範囲で、身近なことから実現しましょう！

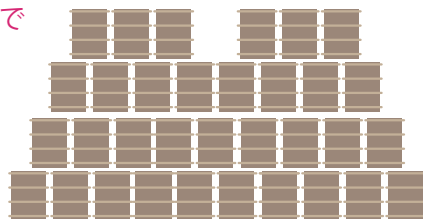
3つの省エネでこんなに効果が！

- ◎夏の冷房設定温度を27℃→28℃に
- ◎冬の暖房設定温度を21℃→20℃に
- ◎冷暖房の運転時間を1日1時間ずつ短縮

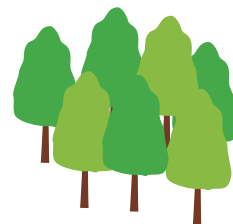
例えばエアコンの省エネでは・・・全世帯で



消費電力 約210億kWhの削減



原油換算でドラム缶(200L) 約2,644万本の削減
=東京ドーム4個分



CO₂削減量 約1,022万トン
=杉の木の吸収量にすると約7.3億本分

- 総世帯数：5,558万世帯(出所：住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数(平成25年3月31日現在))
- エアコン普及率：264.3%(出所：消費動向調査(全国、平成25年3月実施調査結果))
- 杉の木換算(年間吸収量)：平均14kg/本(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省/林野庁)
- CO₂排出換算係数：電気0.487kg/kWh(出所：電気事業における環境行動計画2013 電気事業連合会)

町では、「かんきょう家計簿」をつけていただけのご家庭を募集しています。
詳細については、軽井沢町ホームページ
<http://town.karuizawa.nagano.jp/> をご覧下さい。

